

# 令和5年度 幼保小連携推進地区事業 西富岡地区活動報告



西富岡地区  
西富岡小学校 京急幼稚園 きらら保育園

# ◆西富岡地区推進テーマ

子どもの育ちと学びをつなぐ交流と連携

～幼保の「学び」を生かしたカリキュラム・マネジメント～

## ●テーマ設定理由と期待する効果

幼稚園・保育園から小学校に入学する子どもたちにとって、小学校は新しい未知な環境となる。西富岡小学校ではスタートカリキュラムを教育課程に位置付け、幼稚園・保育園から小学校へのなめらかな接続を図る手立ての一つとしてきたが、幼保小職員間の交流を深め、連携し、幼保の学びを生かした学校生活にしていきたいと考えた。そのため、まず幼保小互いに実践を知り、教職員が相互に授業や保育を行うことで、発達の段階にふさわしい指導や支援のあり方を探る。さらに年長児と1年生が交流することで、1年生児童の企画・実践力の向上や異年齢の交流で生まれる自己有用感にも期待したい。幼保小の取組を進めることで、他者に対する理解や思いやりを育て、豊かな情操を育みたいと考えている。

## ◆昨年度（1年目）の成果と課題

- ▶ スタートカリキュラムではそれぞれの園での経験を共有化することで、幼保のなめらかな接続を図ることができた。
- ▶ 教職員が授業や運動会の参観、研修会などを通して、情報交換したり、互いの教育環境、活動を理解したりすることができた。
- ▶ 「読み聞かせ」という幼保小共通で行っている活動の研修を行うことで、接続期カリキュラムの参考にすることができた。
- ▶ コロナ禍のため、予定していたができなかった活動もあった。また、打合せの時間がなかなか取れず、オンラインミーティングとなった。
- ▶ 架け橋期のカリキュラムについて考えていく必要がある。

## ◆今年度（2年目）の活動に向けて

- ▶ 子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実
- ▶ 年長から1年生までの2年間をつなぐ架け橋プログラムについての理解を深める
- ▶ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手掛かりとした架け橋期の指導を考える

# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

- ▶ 本校では1年生の4～6月にかけて、スタートカリキュラムに取り組んでいる。
- ▶ 子どもたちが安心感をもち主体的に活動に取り組むことができるように、出身園にアンケート調査をし、園で経験していた手遊びや読み聞かせ、ダンスなどを取り入れた。
- ▶ 子どもたちには、「これわかるよ」「やったことある」など自信をもって取り組む姿が見られた。



# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

- ▶ なかよしタイムでは、園と同じような環境構成に留意した。
- ▶ ランドセルを置いたら、自由に遊ぶ場と時間を保障した。
- ▶ 園の先生方に小学校に来ていただき、読み聞かせを行っていただいた。



# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

## ●読み聞かせをしていただいた園の先生より



コロナの影響もあり、ここ何年か小学校との交流も少なくなっていて校舎の中に入ることもなかったので、その環境が見られてよかったです。1年生への絵本の読み聞かせでしたが、始まる前までは緊張していましたが、とても楽しんで聞いてくれたので嬉しかったです。そして、教室を移動する際に、担任の先生に卒園児の様子を聞くことができたのがとてもよかったです。

小学校内に入る機会がなかなかないので、今の小学校の環境や雰囲気を知れて楽しかったです。また、小学校でも変わらないと思いますが、クラスによって雰囲気も変わるんだなと3クラス回って改めて実感しました。基本的なあいさつは保育園時代から習慣化し、あいさつするのがあたりまえ、意識せずとも自然と出てくるように日々伝えていきたいと思いました。

# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

- ▶ わくわくタイムでは、自分たちで行きたい場所を決め、学校探検に行った。
- ▶ さまざまな人との関わりの中で「勇気を出せば、教えてくれる」安心感をもつことができた。





# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

- ▶ なかよしタイム、わくわくタイムで出てきた疑問ややりたいことを引き出すことで、ぐんぐんタイム＝「教科へのつながり」に自然につながっていった
- ▶ 子どもたちが「学ぶことが楽しい!」と感じる主体的な学びとなった。



# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

## ●遊び交流

- ▶ 京急幼稚園、きらら保育園の園児と、西富岡小学校の校庭で年3回の遊び交流

園児と1年生とで遊び交流を行う計画を立てた。交流を通して、1年生は自分自身の成長に気づいたり、周りを見てかかわったりすることができた。自分よりも年下の子もたちとのかかわりを通して、責任感や自己有用感が育った。



# ◆子どもの安心感と主体性を大切にしたスタートカリキュラムの充実

## ●球根うえ

- ▶ 共通体験として、園児・児童が一人一鉢の球根うえ

入学後に「こんなことがあったよね。」と1、2年生での交流につながるように、共通体験として揃いの鉢にチューリップの球根を植える体験をした。園児・児童と一緒に鉢に自分マークや絵を描き、ときには1年生が年長児を手伝いながら、どの子も大切に自分の球根を植えた。



# ◆架け橋プログラムについての理解を深める

## ●幼保小職員夏季研修

幼児期の育ちや学びを生かした主体的な学びを創る  
～架け橋期の指導を考える～

東海大学児童教育学部准教授寶來生志子先生を  
招き、架け橋期の指導に関する幼保小の職員研修を  
行った。



研修では、子どもの育ちや学びをつなぐために、  
どのように子どもを見とり、主体的な学びを創ってい  
くのかを学んだ。その後は幼稚園や保育園、小学校の  
保育士や教師が混ざったグループで意見交換をしたり、  
グループごとに発表会をしたりした。

研修では、講師の寶來先生に歌や手遊びなどを実演  
していただき、その魅力にたっぷり浸ることができた。



# ◆架け橋プログラムについての理解を深める

## ●研修に参加した職員より



体育館の鍵を借りに職員室に来る場面で、漢字で分からなかったところを見て次の日にはふりがなをふって見つけやすいようにしていました。子どもたちの中のできごとを、しっかりと次の日に繋げているなと感じました。「繋げる」ことは簡単なようで難しいと思います。そういった部分を先生方と語り合えたらと思います。

～架け橋期の指導を考える～をテーマに学び、改めて小学校への接続や、子どもにとっての安心感の大切さを感じました。中でも印象に残っているのは「考えないスイッチが入らないようにする」ということです。子どもたちが自信をもって主体的に活動できるよう、どう援助したらよいかを考えたときとても分かりやすい表現だと思いました。

# ◆架け橋プログラムについての理解を深める

## ●西富岡小学校の授業参観

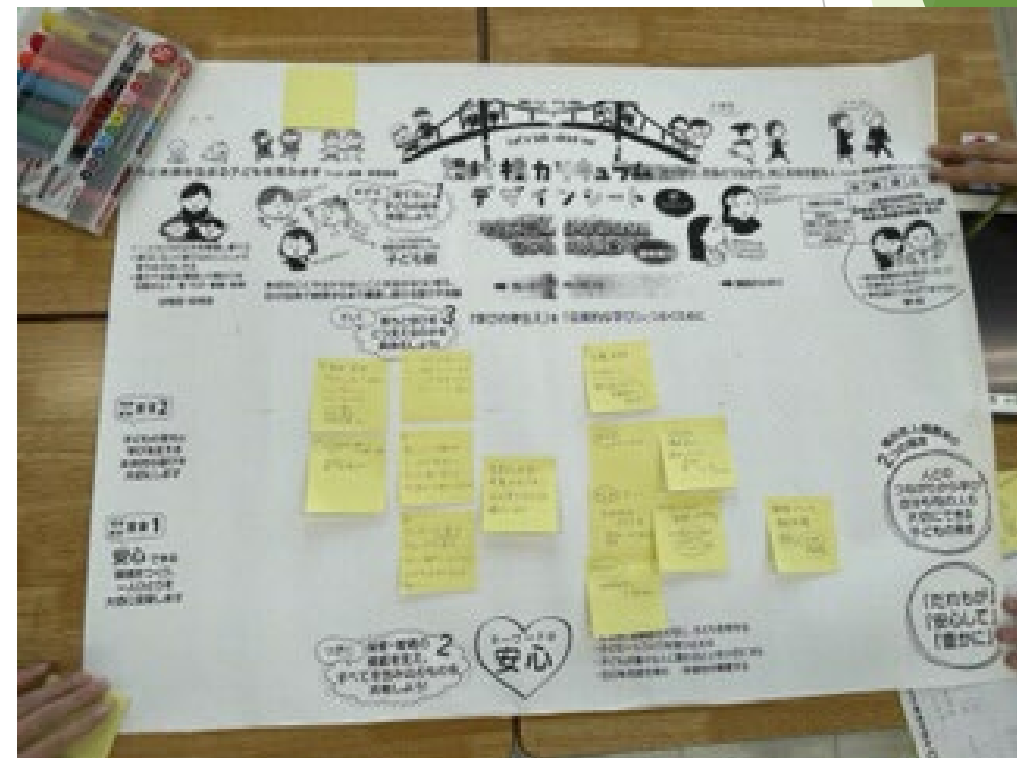
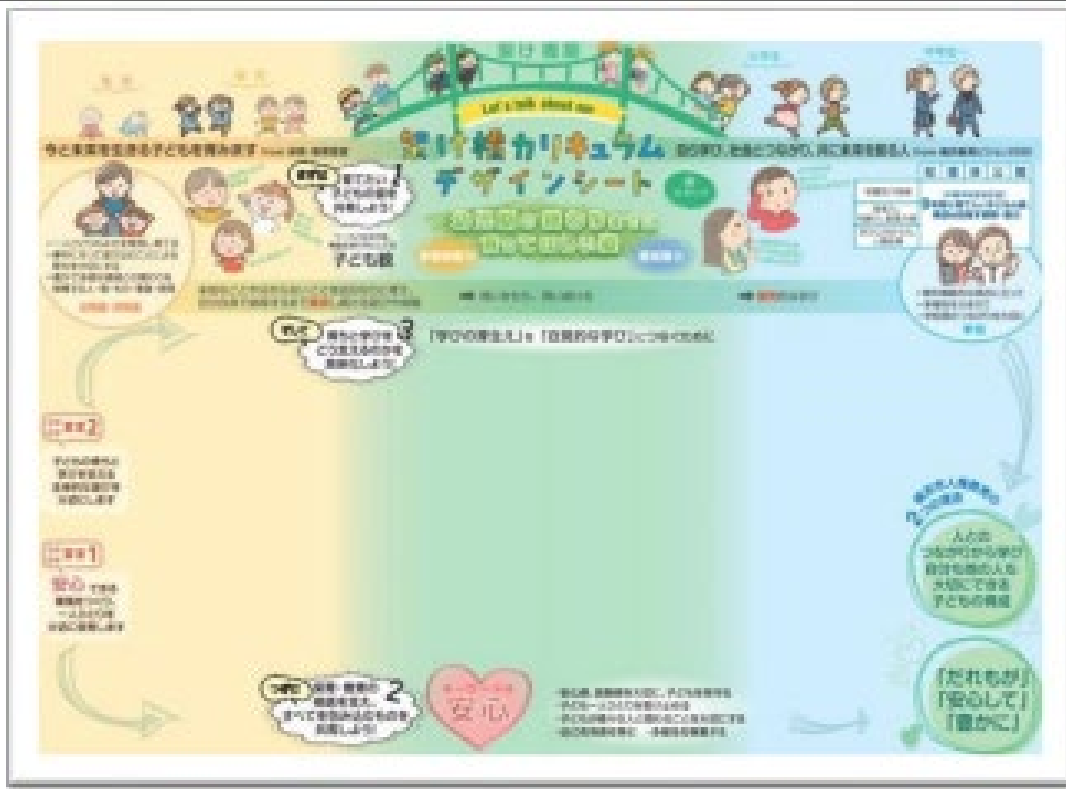
土曜参観日に併せて、学校運営協議会を開催。京急幼稚園、きらら保育園の園長も参加し、1年生を中心に授業参観を行った。後半の協議会では、子どもたちの様子や、タブレット端末を活用した授業実践などについて感想を交流した。



# ◆架け橋期の指導を考える

5歳児から小1までの2年間

→生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期



## ◆架け橋期の指導を考える

### ●子ども観の転換

★これまでの園の経験の中で、子どもたちがたくさんの知識や技能を獲得（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）していることを理解する。

★「好きなこと」「得意なこと」を生かして力を発揮してほしい

### 【子どもの具体の姿】

幼稚園・保育園で日々の生活の中で培ってきた力を、  
自信をもって発揮して学び続ける子



## ◆架け橋期の指導を考える

### ●架け橋期で大切にしたい子どもの姿

#### ★「問いをもち問い続ける」姿

教師の言葉かけ どうしたらよいと思う？ どうしたいの？

#### ★子どもにとって「必要感のあるはてな」を生み出す

はてなをかいけつ。みんなでかいけつ。



## ◆今年度の成果と課題

- ▶ スタートカリキュラムでは、時間の取り方や教室環境、園で読んできた本や遊びなどをとり入れ、それぞれの園での経験を共有化することで、幼保とのなめらかな接続を図ることができた。
- ▶ 昨年度行った「読み聞かせ」研修を生かし、園の先生方による読み聞かせを小学校の教室で行った。
- ▶ 教職員が授業や運動会の参観、研修会などを通して、情報交換したり、お互いの教育環境、活動を見学したりし、理解を深めることができた。
- ▶ 暑さや雨のため実際は6月～10月の交流活動が難しい。予定していたができなかった活動もあった。
- ▶ 架け橋期の指導についてさらに考えていく必要がある。

## ◆3年目に向けて

- ▶ 子どもの安心感と主体性を大切にした、接続期カリキュラムの作成
- ▶ 年長児と1年生の交流の充実
- ▶ 架け橋プログラムについて、職員や保護者への理解を深める
- ▶ 子ども観を共有した架け橋期の指導の具現化